

佐渡木匠塾 2025

芝浦工業大学蟹澤研究室

金子 美菜

内山 尚嗣

山口 麻帆

1. 佐渡木匠塾について

佐渡木匠塾とは、蟹澤研究室が 2005 年から毎年行っており、施主様から古民家の改修・家具の製作などのご依頼をいただき、調査から設計、施工、納品、維持管理まで学生が主体となって行っているプロジェクトである。

【今年度の概要】

日程：8 月 1 日（木）～8 月 17 日（土）

参加者：蟹澤教授、学部 3 年から修士 2 年までの学生 34 人

2. あいかわ開発総合センタープロジェクト

あいかわ開発総合センターに入って真っ直ぐの吹き抜け空間を木質化するプロジェクトを行った。「地域の子供たちが自由に遊べてくつろげる空間作り」をテーマにし、木質化の足掛かりとしてフローリング張りと児童用家具の製作を行った。調査では、レーザー水平器や実測アプリを使用して、実測や不陸の確認を行った。

まず墨だしを行い、その墨を参考にしながら根太の取り付けを行った。その際、のちに打つステーブルの位置とビスの位置が重ならないように、計算しながらしっかり墨付けを行った。次に、死節や割れ、腐食をできる限り避けながら木取りを行った。床板の配置決めでは、二階から全体を見ながら節の量や色味、木目のバランスを考えて配置を決めた。壁がまっすぐではないため、特に壁沿い一列目の設置が難しく、微調整を重ねながら設置を行った。その後も、一本一本壁との距離をみながら調整していくとても繊細な作業だったが、49 列の床板を無事に張り終えることが出来た。框とはばきの設置し、最後に子どもが裸足で歩くことを考慮し、安全のため木くずとボンドを調合して節うめを行った。

様々な用途・形で使用出来るボックス型の家具兼遊具を作成することに決定した。直方体と立方体のボックスを自由に組み合わせることで、様々な用途で使用でき、遊び心あふれるものにしたいと考えた。また、フローリング材と同じ材を使用することで、デザインの統一性を図るだけでなく、生産性向上にも努めた。加工では、材が発注寸法通りではなかったため、はじめにガイドとなる材を切り出し、それを基準に切り出しを進めた。切り出した材の木目や色味を考慮しながら面を作った。ボックスの形に組み立て

するためには面どうしが直角でなければならないため、コーナークランプなどを使用して作業を進めた。接合にはビスを使用したけど、表面にビスが見えないようにダボをうめて隠した。節や隙間に木くずとボンドを調合したものを埋めた。完全に抜けてしまっている死節は、のぞき穴へと活用した。最後に、仕上げとして面取りを行った。子供が使用することを考慮し、鉋やサンダーを用いて、できる限り角を落として丸みを持たせた。



3. 木工教室

毎年地域交流の一環として、木工教室を開催している。今年度はあいかわ開発総合センターにて開催し、また新潟県建設業協会佐渡支部青年部の方に協賛としてご協力いただいた。実施内容は、昨年に引き続き木のブロック工作と寄木コースターの製作に加え、新規の製作物としてフローリング・家具の端材を利用した本棚とジェンガ・ドミノ製作の4つを行った。木のブロック工作は、建設業協会からいただいた端材を利用して行った。様々なパーツを自由に組み合わせておもしろおもしろい作品作りを楽しんでいただけた。寄木コースターでは、様々な樹種のひし形パーツから好きなものを組み合わせて製作でき、子どもだけでなく大人の方にも楽しんでいただけた。フローリングと家具で使用した材には、品質の都合上、沢山の破材が産まれてしまったが、その破材を活用して本棚製作を行った。実際に子供たちに木づちを使用して製作してもらった。また、破材を小さく加工することで、ジェンガやドミノも製作した。気軽に木に触れることができ楽しんでもらうことが出来た。今年度の木工教室は、子供から大人まで約 70 人の方にご参加いただき、過去最高の来客者数だった。

